



東北大学

東北大学学報

TOHOKU UNIVERSITY

No.1626 / 2006.1

フランス国立中央理工科学学校グループ5校との大学間学術交流協定調印式

(記事11ページ)



CONTENTS

目次

新年を迎えて 2

・ 総長 吉本高志

学 事 3

・ 平成17年度科学研究費補助金の追加内定状況

諸 報 10

- ・ 東北大学初のダブルディグリープログラムの覚書を INSA-Lyon (フランス) と締結
- ・ フランス国立中央理工科学学校グループ5校との大学間学術交流協定調印式
- ・ 国立交通大学 (台湾) との大学間学術交流協定調印式
- ・ 多元物質科学研究所創立5周年記念行事 - 多元物質科学研究所研究発表会並びに素材工学研究奨励賞授賞式及び科学計測振興会賞授賞式

- ・ 百周年記念事業・東北大酒の名称は「萩丸」に決定
- ・ 21世紀 COE プログラム「言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点」第6回『言語・脳・認知』国際学術フォーラム
- ・ 平成17年度国際文化研究科 FD 開催
- ・ 平成17年度生涯生活設計セミナー開催
- ・ 今春の定年退職教職員
- ・ 定年退職教員の最終講義日程
- ・ 2月の行事予定
- ・ 訃 報
- ・ 本学関係の新聞記事一覧 (平成17年12月分)

資 料

- ・ 平成17年東北大学の動向 (別冊)



東北大学は2007年に創立百周年を迎えます。

- 新年を迎えて -

総 長 吉 本 高 志



新年明けましておめでとうございます。

昨年の6月末、法人一年目の平成16年度国立大学法人東北大学の業務実績報告書を国立大学法人評価委員会に提出しました。それに基づき7月、東京での総長、理事のヒアリング、ヒアリング時の確認資料の提出、評価委員会からの評価結果（素案）に対する意見の照会、そして評価委員会の最終評価の決定と、国立大学法人の初めてのいわゆる「評価」の全過程を経験いたしました。周知のごとく、9月、すべての国立大学法人の平成16事業年度評価結果が公表されました。本学は、4大項目すべてが計画通り進んでいるとの優れた評価結果を得ることができました。

法人化により、中期目標の作成、それを実行するための中期計画の達成、中期期間での計画の達成度などの実績が国立大学法人評価委員会により評価され、次の第二期期間の資源配分が決められる。今までの国立大学では殆ど認められなかった仕組みが、現実に始まりました。

本学は、平成22年度から新たに始まる第二期目の期間に向けて、平成19年度の終わってから平成20年度の初めにかけて、極めて重要な作業をしなければなりません。即ち、第一期中期計画の全体評価を受けるべく暫定業務実績報告書の作成であり、第二期中期目標と中期計画の素案作成であります。前者は次期中期期間における運営費交付金の決定根拠になり、後者は東北大学の次の6年間の基礎となります。国立大学法人としての重要な工程がすぐ目前にあるわけです。

さて、平成19年6月に本学は創立100周年を迎えます。100周年記念事業といたしまして、「東北大学基金」の創設、記念建造物（総合学術博物館）の整備、「百年史」の刊行、記念催事を主な事業と位置づけ、「東北大学100周年記念セミナー、科学が次の100年で創り出せること」と題した全国キャンペーンを展開している最中です。この100周年記念事業のための記念募金は最も大切であり、平成19年度のぎりぎりまで続くことになると思われます。

さらに平成17年1月、青葉山県有地が宮城県に明け渡され、いろいろな議論を経、同年6月、国立大学法人東北大学の役員会において「新キャンパス整備方針」が決定されました。これにより平成6年からの懸案でありました移転事業が本格的に動き出しました。青葉山・川内グリーンキャンパス、片平アーバンキャンパス、星陵メヂカルキャンパスの三キャンパス構想であります。青葉山新キャンパスは、国立大学法人化による全く新たな整備手法を導入し、平成17年度より用地取得や環境アセスメント・開発許可などの各種手続きが始まっております。創立100周年を迎える平成19年には造成工事・建築工事が開始される予定です。

「国立大学法人東北大学」、「創立100周年記念事業」、「新キャンパス整備」は、個別に見ましても大変な事業であり、当然のことながら、その結果が東北大学の将来にきわめて重要な影響を及ぼします。そして、この歴史的ともいえる「三大事業」はお互いに関連を持ちながら同時進行していくことになります。東北大学の長い歴史と伝統をもとに、教職員をはじめ多くの方々のご努力により必ず大いなる成功を遂げるものと確信いたしております。「三大事業」の成功により、東北大学は、さらに国内外に向けて大きな飛躍を成し遂げることになります。

現在、国立大学法人東北大学は、「研究中心大学」、「世界と地域に開かれた大学」、「指導的人材の養成」を中期目標に掲げ、すべての研究科、研究所が、それぞれ適度の緊張感と競争的環境のもと、より高度な教育研究拠点を目指し努力を積み重ねております。新年を迎えるにあたり、大学全体の大きな流れの中で、各研究科、研究所の更なる発展を心から祈念いたすものであります。

国立大学法人東北大学、そして皆様にとりましても平成18年がよい年でありますように心からお祈りいたし新年のご挨拶といたします。



平成17年度科学研究費補助金の追加内定状況

1. 追加内定（第二次）分

内定年月日：平成17年 9 月30日付け

（注）研究代表者の欄の所属・職名は申請時のものである。

研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
萌 芽 研 究		17650057	電気通信研究所・教授 鈴 木 陽 一	圧縮された音楽信号の原音修復に関する研究	1,400
		17650126	先進医工学研究機構・教授 高 山 和 喜	衝撃波照射に起因する細胞内誘因物質の特定に関する研究	2,100
		17651116	理学研究科・教授 上 田 実	電子顕微鏡観察用プローブを用いた生理活性物質受容体の細胞内局在性に関する研究	1,300
		17651117	工学研究科・助教授 中 山 亨	新規な銅シャペロン（ P P Oシャペロン）遺伝子の探索と機能解析	1,900
		17652002	文学研究科・教授 野 家 啓 一	ナラトロジー（物語り論）による「二人称の科学」の方法論的基礎づけ	1,500
		17654036	理学研究科・教授 小 谷 元 子	超準解析による極限定理の幾何的解釈	1,100
		17654082	理学研究科・助手 本 堂 毅	低周波交流磁場に対するゾウリムシの環境応答 - 膜チャネルの共鳴メカニズム -	1,000
		17654085	理学研究科・教授 大 槻 憲四郎	摩擦熱で自己制御された地震性摩擦すべりに関する萌芽研究	1,800
		17656063	流体科学研究所・教授 早 瀬 敏 幸	計測融合シミュレーションの理論的枠組みの構築	1,100
		17656102	工学研究科・助教授 角 田 匡 清	電子ビーム選択CVDによるナノメートル級ハードマスクの作製とパターンニング	1,300
		17656223	金属材料研究所・助手 藤 原 航 三	デンドライト成長を利用した完全配向半導体バルク多結晶の成長技術の開発	1,300
		17656248	多元物質科学研究所・助教授 塚 田 隆 夫	不均一場における相分離構造形成の数値モデリング手法の開発	1,400
		17659040	大学病院・教授 後 藤 順 一	薬物トランスポーターを機能性器材とする抗癌剤スクリーニングシステムの構築	1,700
		17659111	医学系研究科・助教授 福 重 真 一	安定なRNA干渉を可能にするステーブル細胞株作製技術の開発	1,700
		17659398	医学系研究科・助手 関 口 悟	生体内アミノ酸代謝・動態において脾臓が果たす新しい機能の解析	1,800
		17659425	加齢医学研究所・非常勤講師 佐 藤 雅 美	非小細胞性肺癌に対する、exon skipping 法を用いたイレッサ感受性の獲得	900
	計		16 件		23,300

研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
基 盤 研 究 (C)	一般	17510173	生命科学研究科・助教授 及 川 雅 人	貝毒アザスピロ酸の全合成とハブテン合成に関する研究	1,100
	一般	17520463	文学研究科・教授 川 井 安	「六朝貴族制」の学説的研究	500
	一般	17540210	理学研究科・教授 千 葉 征 司	銀河における暗黒物質構造の解明	900
	一般	17590977	大学病院・講師 亀 岡 淳 一	造血支持骨髄間質細胞の機能分子の解析	1,800
	一般	17592174	大学病院・助手 千 葉 潤 子	ヒト α と粘膜免疫関連遺伝子の解析 (Fc 受容体, サイトカイン遺伝子について)	1,000
	計		5 件		5,300

2. 突発災害による追加内定

内定年月日：平成17年 8 月16日付け

研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
特別 研究 促進 費		17800002	理学研究科・教授 長谷川 昭	2005年 8 月16日に発生した宮城県沖の地震に関する調査研究	18,800
	計		1 件		18,800

3. 他の研究機関(大学等)からの転入による追加内定研究課題一覧(平成17年12月26日現在)

配分額は千円未満四捨五入

事業発生 年月日	研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 9月 1日	若手 研究 (B)		16760390	工学研究科・助手 山 川 優 樹	大変形地盤挙動の高精度予測評価：合理的解析手法の開発と現行設計基準への反映	304
		計		1 件		304
平成 17年 10月 1日	特定 領域 研究		16039217	金属材料研究所・教授 牧 野 彰 宏	Fe 基軟磁性金属ガラスの超低鉄損化に関する研究	1,241
			17040017	工学研究科・教授 新 井 史 人	マイクロ流体素子の非接触駆動と液中微小物体操作への応用	2,587
		計		2 件		3,828
	基盤 研究 (B)		17360113	工学研究科・教授 新 井 史 人	三次元マルチスケール操作を用いたオンチップ限定空間における細胞計測	5,724
		計		1 件		5,724
	基盤 研究 (C)		15520002	文学研究科・助教授 直 江 清 隆	技術哲学の展開の可能性と実践的意義に関する研究	463
			17636017	金属材料研究所・教授 新 家 光 雄	ナノ表面インテグレート生体機能材料の創製とその生体内外評価	2,299
		計		2 件		2,762

事業発生 年月日	研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 10月 1 日	若手研究(B)		16700257	経済学研究科・助教授 松 田 安 昌	時系列相関が存在する場合の統計的因果性分析法について	409
			16740057	理学研究科・助教授 山 崎 武	逆数字および算術の体系に関する研究	848
		計	2 件			1,257

4．研究代表者の交代に伴う追加内定研究課題一覧（平成17年12月26日現在）

配分額は千円未満四捨五入

事業発生 年月日	研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 9月 20日	基礎研究(C)		15520122	文学研究科・教授 佐 藤 伸 宏	近代日本における（座談会）の成立過程についての動態的・総合研究	339
		計	1 件			339

5．特別研究員奨励費の年度途中の内定研究課題一覧

内 定 年月日	研究種目	資 格	受付番号	受入研究者氏名 (外国人特別研究員氏名)	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 9月 27日	特別研究員奨励費	新	05069	金属材料研究所・教授 川 添 良 幸 (WU, Z.)	第一原理計算による金属クラスターの最安定構造決定と磁性算定	600
		新	05216	未来科学技術共同研究センター・教授 寺 崎 哲 也 (CAI, X.-K.)	血液脳関門輸送の分子生物学とその薬物送達への応用	800
		新	05401	多元物質科学研究所・教授 伊 藤 攻 (EL-KHOULY, M. E.-S.)	フラレーン・ポルフィリン分子系を利用するナノ構造人工光合成モデル	1,200
		計	3 件			2,600
平成 17年 11月 15日	特別研究員奨励費	新	05274	工学研究科・助教授 石 坂 公 一 (ROYCHANSYAH, M. S.)	日本におけるコンパクトシティモデルの定式化とその発展途上国への適用可能性	800
		新	05289	環境科学研究科・助教授 風 間 聡 (SARUKKALIGE, P.)	全球規模での温暖化による沿岸地下水質の影響と総合評価	700
		新	05302	理学研究科・教授 山 口 昌 弘 (PARK, J.-H.)	超対称統一理論におけるフレーバー構造の研究	600
		新	05366	金属材料研究所・教授 高 梨 弘 毅 (WANG, H.)	ハーフメタルホイスラー合金を用いた人工ナノ構造における磁気伝導の研究	1,200
		新	05393	理学研究科・教授 寺 前 紀 夫 (YE, Z.-Q.)	脱塩基オリゴDNAを用いた一塩基置換のSPR検出	500

内 定 年月日	研究種目		資 格	受付番号	受入研究者氏名 (外国人特別研究員氏名)	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 11月 15日	特別 研究員 奨励費	新		05395	理学研究科・教授 山 本 嘉 則 (FISCHER, D.)	触媒的カルボアミノ化の新技术開拓	600
		新		05461	農学研究科・教授 西 尾 剛 (ZHANG, S.-L.)	バラ科ナシとアブラナ科植物の自家和 合性変異に関する比較研究	1,200
		新		05771	工学研究科・助教授 胡 寧 (ELMARAKBI, A. M.)	自動車用の F R P 殻構造の耐衝撃特性 の解析と設計に関する研究	1,200
		新		05814	生命科学研究所・助教授 彦 坂 幸 毅 (MULLER, O.)	常緑広葉樹の分布を説明する機能・機 構の研究	300
		計			9 件		

6 . 追加配分研究課題一覧

内 定 年月日	研究 種目	区 分	課題番号	研 究 代 表 者	研 究 課 題	配分額(千円)
平成 17年 10月 20日	特別 推進 研究		14002001	理学研究科・教授 山 本 嘉 則	ルイス酸・遷移金属触媒を用いる環境 調和型分子変換プロセスの開拓	5,200
			15002001	多元物質科学研究所・教授 山 本 正 樹	レーザープラズマ軟X線光源を用いた 超高分解能多元物質顕微鏡の開発	5,800
		計	2 件			
平成 17年 11月 11日	特別 推進 研究		16002008	電気通信研究所・教授 中 沢 正 隆	光フーリエ変換を用いた新しい超高速 無歪み光伝送技術の確立	15,500
		計	1 件			

平成18年度科学研究費補助金応募状況（部局別）

平成17年11月25日作成

部 局 名	17年度応募件数	18年度応募件数	前年度差	科研費研究者 名簿登録数
			-	
文学研究科	55	73	18	117
教育学研究科	20	18	△ 2	38
法学研究科	15	19	4	70
経済学研究科	24	37	13	77
理学研究科	308	259	△ 49	329
医学系研究科	327	289	△ 38	270
歯学研究科	75	85	10	112
病院（医学＋歯学）	331	341	10	499
薬学研究科	116	121	5	86
工学研究科	390	397	7	410
農学研究科	131	113	△ 18	128
国際文化研究科	35	32	△ 3	61
情報科学研究科	85	88	3	99
生命科学研究科	102	112	10	80
環境科学研究科	67	75	8	67
教育情報学研究部	7	3	△ 4	10
金属材料研究所	143	158	15	181
加齢医学研究所	77	68	△ 9	57
流体科学研究所	50	52	2	70
電気通信研究所	55	63	8	83
多元物質科学研究所	164	158	△ 6	162
サイクロトロン R I センター	6	9	3	16
東北アジア研究センター	24	16	△ 8	29
極低温科学センター	6	7	1	6
総合学術博物館	5	7	2	6
未来科学技術共同研究センター	30	26	△ 4	51
学際科学国際高等研究センター	15	17	2	13
環境保全センター	3	3	0	5
高等教育開発推進センター	22	21	△ 1	39
国際交流センター	5	4	△ 1	10
植物園		0	0	3
情報シナジーセンター	14	11	△ 3	16
保健管理センター	4	2	△ 2	11
埋蔵文化財調査研究センター	1	1	0	1
ベンチャービジネスラボラトリー	1	0	△ 1	1
先進医工学研究機構	75	71	△ 4	58
医学部保健学科	33	39	6	51
本部		1	1	1
計	2,821	2,796	△ 25	3,323

1. 応募件数には、「特別推進研究」の採択課題による継続課題 9 件、「特定領域研究」の継続課題で研究計画調査提出課題30件を含む。
2. 科研費研究者名簿登録を行っている役員等 7 名及び名誉教授40名にかかる応募件数及び名簿登録数については、名簿登録を行った部局に含む（特任教授分は本部に記載）。

平成18年度科学研究費補助金応募状況（研究種目別）

平成17年11月25日作成

		平成17年度 応募件数	平成18年度 応募件数	前年度差 -	備 考
特別推進研究	新 規	22	14	△ 8	
	継 続	6	9	3	
特 定 領 域 研 究（計画）		22	32	10	
特 定 領 域 研 究（公募）		381	359	△ 22	
基 盤 研 究（S）		48	42	△ 6	
基盤研究（A）	一 般	136	142	6	
	海外学術調査	9	4	△ 5	
基盤研究（B）	一 般	424	440	16	
	海外学術調査	27	20	△ 7	
基盤研究（C）	一 般	473	461	△ 12	
	企 画 調 査	49	47	△ 2	
萌 芽 研 究		688	677	△ 11	
若 手 研 究	（ A ）	79	77	△ 2	
	（ B ）	456	472	16	
継続の大幅な変更のあるもの		1	0	△ 1	特定領域（増額申請）
計		2,821	2,796	△ 25	

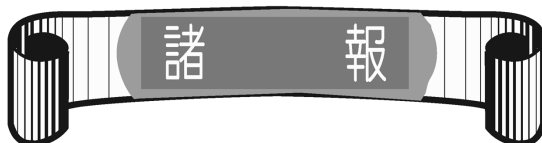
応募件数には、「特別推進研究」の採択課題による継続課題9件、「特定領域研究」の継続課題で研究計画調書提出課題30件を含む。

平成18年度科学研究費補助金応募状況（部局及び研究種目別）

平成17年11月25日作成

研究種別	特別推進研究	特定領域研究（計画）	特定領域研究（公募）	基盤研究（S）	基盤研究A		基盤研究B		基盤研究C		萌芽研究	若手研究（A）	若手研究（B）	継続の大幅な変更のあるもの	計
					一般	海外学術調査	一般	海外学術調査	一般	企画調査					
文学研究科	1		1		7		11	2	16	2	13		20		73
教育学研究科							4		7		5		2		18
法学研究科		1			2		2		7		1		6		19
経済学研究科							10	1	12		7		7		37
理学研究科	6	3	19	2	19		40	4	45	6	46	9	60		259
医学系研究科		6	70	1	9		43	1	55	7	74	3	20		289
歯学研究科			5		2		19		25	1	17		16		85
病院（医学＋歯学）			18		1		41		103	3	91	4	80		341
薬学研究科		1	50	2	3		13		6		22		24		121
工学研究科	2	3	30	16	36		72	3	32	7	114	15	67		397
農学研究科		1	7		5		28	3	22	2	35	1	9		113
国際文化研究科							7	2	18	2	2		1		32
情報科学研究科		5	15				10		16	3	16	5	18		88
生命科学研究科	1	3	44	3	4		14		13		19		11		112
環境科学研究科			4	2	7	1	13	3	3	4	21	3	14		75
教育情報学研究部									1				2		3
金属材料研究所	2	2	25	1	9		23		21	2	42	7	24		158
加齢医学研究所		3	21	1	2		9	1	4		16	3	8		68
流体科学研究所	2			2	6		7		4	1	15	2	13		52
電気通信研究所	3		3	4	8		11		3	3	16	2	10		63
多元物質科学研究所	1	1	17	1	10		35		11	3	51	10	18		158
サイクロトロンRIセンター		1	1								1	1	5		9
東北アジア研究センター				3	2	2	2		2		1		4		16
極低温科学センター	1		1				1		1		2	1			7
総合学術博物館						1			4		1		1		7
未来科学技術共同研究センター	2		1	1	4		1		2		5	5	5		26
学際科学国際高等研究センター	1	2	1	1	1		2		1		6	2			17
環境保全センター							1				2				3
高等教育開発推進センター	1		2		1				8		2		7		21
国際交流センター									3		1				4
植物園															0
情報シナジーセンター			1				4				5		1		11
保健管理センター											2				2
埋蔵文化財調査研究センター													1		1
ベンチャービジネスラボラトリー															0
先進医工学研究機構			18	2	4		10		1		17	4	15		71
医学部保健学科			5				7		14	1	9		3		39
本部									1						1
計	23	32	359	42	142	4	440	20	461	47	677	77	472		2,796

応募件数には、「特別推進研究」の採択課題による継続課題9件、「特定領域研究」の継続課題で研究計画調書提出課題30件を含む。



東北大学初のダブルディグリー・プログラムの覚書を INSA-Lyon（フランス）と締結



（調印式）

平成17年11月24日（木）午後7時よりフランス、リヨン郊外にある INSA-Lyon（国立応用科学院リヨン校）の応接ホールに同校アラン・ストーク学長，本学大西仁理事および約30名の両校関係者が集い，本学初となるダブルディグリー・プログラム覚書の調印式が行われました。冒頭にアラン・ストーク学長より「アジアとは初めてのダブルディグリー・プログラムであり，今後，東北大学を始めとする国際交流に更に力を入れていきたい。既にこのダブルディグリー・プログラムに参加を希望している学生があり，将来が楽しみ」とご挨拶があり，大西理事の「ダブルディグリー・

プログラム覚書締結は本学にとって初めてのことで，日本とフランスの架け橋となり，さらに地球規模で活躍する人材を東北大学から輩出できるのは非常に光栄」とのスピーチの後，覚書が調印され，笑顔で握手が交わされました。

INSA-Lyon は1957年に設置されたフランスの主要な工学系高等教育機関の1つであり，10学科（生化学科，エネルギー環境工学科，材料工学科，電気通信工学科，土木・都市工学科，機械設計工学科，産業工学科，電気工学科，機械開発工学科）31専攻からなり，フランスの科学技術と経済の発展に大きく貢献しています。本学は流体科学研究所を中心に1997年から交流を重ね，一昨年7月に大学間学術交流協定を締結しました。

今回締結されたダブルディグリー・プログラムに参加する両校からの学生は約2年間相手校に在籍し，専門の研究，語学の習得，企業や研究所でのインターンシップで一定の成績を得られれば，それぞれから大学院レベルの学位を修めることができます。

調印式の後，INSA-Lyon 主催の夕食会が行われ，フランスワインで乾杯の後，和やかな会話が続けられました。

（国際交流部国際交流課）

フランス国立中央理工科学学校グループ 5 校との大学間学術交流協定調印式

平成17年11月28日（月）に本学はフランス国立中央理工科学学校グループ 5 校との大学間学術交流協定を締結いたしました。5 校とはパリ校，リヨン校，リール校，ナント校，マルセイユ校です。いずれも大学とは異なる国立の高等教育機関であるグランゼコールの 1 グループであり，国家指導者養成のために設置されたものです。技術系を専門とするジェネラリスト養成を目的とし，理工学について幅広く基礎・応用の両面の知識の習得，企業でのインターンシップ教育の実施を行っており，卒業生の多くがフランス各機関で幹部として活躍しています。

本協定はダブルディグリー・プログラムを実施するために予め大学間学術交流協定を締結するものであり，今後ダブルディグリー・プログラムに関する覚書を順次締結していく予定です。

なお，2003年 5 月21日に締結した本学と中央理工科学学校リヨン校との大学間学術交流協定は廃止され，その内容はフランス中央理工科学学校グループとの一層緊密な関係を樹立するために本協定に移行いたしました。

これによりフランスの最高レベルの学生を多く受け入れることができ，また，本学の学生にグランゼコールにおける教育を体験させることにより，より幅広い知見を持たせることが期待され，更には本学学生が将来フランスにおいて幹部とすることが見込まれる学生との人脈を築くことが可能となります。

調印式はリヨン校で行われ，大西理事が吉本総長に代わって署名し，中央理工科学学校グループの 5 人の校長先生や代表の方々がそれぞれ署名をし，シャンパンで乾杯して協定締結を祝いました。



（ 5 校との調印式 ）

（国際交流部国際交流課）

国立交通大学（台湾）との大学間学術交流協定調印式

平成17年12月15日（木）に仙台国際ホテルにおいて台湾の国立交通大学との大学間学術交流協定調印式が行われました。

調印式には国立交通大学から張俊彦学長，謝漢萍ディスプレイ研究所長，張翼材料系主任，葉清發台北駐日経済文化代表処科学技術部長の4名が出席され，本学は吉本総長，大西理事，中島未来科学技術共同研究センター長，井口工学研究科長，大見客員教授（未来科学技術共同研究センター），須川教授（工学研究科）が出席されました。

国立交通大学は，1958年新竹市に開学以来，台湾における卓越した高等教育機関として躍進し，1998年には教育部から最も優れた研究型大学として評価されております。特にマイクロエレクトロニクスの分野において，米国に本部がある世界最大の電気電子学会 IEEE への論文数は世界一となっています。

両大学の交流は，2002年4月に国立交通大学において開催された第2回台湾・日本マイクロエレクトロニクス国際シンポジウムで，当時の大見忠弘未来科学技術共同研究センター教授が招待講演

を行ったことを皮切りに，流体科学研究所の南部健一教授および寒川誠二教授による招待講演等，また，2004年4月には謝ディスプレイ研究所長及び張材料系主任が当時の井口未来科学技術共同研究センター長を訪問される等，学術交流が活発に行われてきました。張学長も2003年11月に本学を訪問されております。なお，現在4名の本学卒業生が国立交通大学で教授を務めております。

これまで培ってきた両校の交流実績を基に，共同研究及び学生交流が更に促進するよう未来科学技術共同研究センターが世話部局となり工学研究科と共に大学間学術交流協定として締結することになったものです。

協定書に署名の後，硬い握手を交わし，吉本総長挨拶，張学長挨拶，記念品交換と続き，記念撮影を行って調印式は終了しました。

引き続き行われた総長主催の昼食会は，台湾新竹市のサイエンスパークにおける産学連携の話題や台湾の新幹線などの話題で盛り上がり，終始なごやかな雰囲気の中に終了いたしました。



（調印後の握手）



（記念撮影）

（国際交流部国際交流課）

- 多元物質科学研究所創立 5 周年記念行事 -
多元物質科学研究所研究発表会並びに素材工学研究奨励賞授賞式
及び科学計測振興会賞授賞式



(齋藤所長の挨拶)

第 5 回多元物質科学研究所研究発表会，第 3 回素材工学研究奨励賞授賞式並びに第37回科学計測振興会賞授賞式が12月 1 日（木）午後 1 時から，仙台国際ホテルにおいて開催され，学内外から約 250 名が参加されました。

研究発表会は，平成13年 4 月に素材工学研究所，科学計測研究所及び反応化学研究所の 3 研究所が統合・再編され，多元物質科学研究所が新たに発足したのを機に始まり，5 年目を迎える今年，多元物質科学研究所創立 5 周年記念行事として開催いたしました。

研究発表会の第 1 部では，齋藤研究所長の挨拶の後，「ノーベル賞候補」として高い評価を受ける新海征治・九州大学大学院工学研究院教授，藤嶋昭・財団法人神奈川科学技術アカデミー理事長，飯島澄男・名城大学教授の 3 氏の特別講演が行われ，続いて活発な質疑応答がありました。

第 2 部では，県内外において第一線で活躍されている研究者の研究成果として，105 件のポスター発表が行われ，今後の国内外の物質科学に関する研究及び産業界における発展に寄与するものと期待されます。



(素材工学研究奨励賞授賞者と記念撮影)

第 1 部終了後に，同会場において第 3 回素材工学研究奨励賞授賞式並びに第37回科学計測振興会賞授賞式が行われました。

素材工学研究奨励賞は，財団法人「素材工学研究会」が，公的機関（主として大学あるいは工業高等専門学校）において素材工学に関連する研究分野で優れた研究成果を挙げ，将来の発展が期待できる40歳未満の若手研究者に対して贈られているものです。授与式では，早稲田理事長から挨拶の後，賞状及び奨励金が授与されました。

受賞者と研究業績は次のとおりです。

佐藤友章（宮城工業高等専門学校助教授）

「金属アルコキシド重合による粒子生成機構と粒子分散系エレクトロロロジー効果に関する研究」

吉川 彰（多元物質科学研究所助教授）

「 Pr^{3+} の $5d - 4f$ 遷移に伴う短寿命発光を用いた新規シンチレータ材料の開発」

また，科学計測振興会賞は，財団法人「科学計測振興会」が，主に東北地方の国公立大学及び研究所等の50歳以下の研究者を対象に，科学計測



(科学計測振興会賞授賞者と記念撮影)

に関して優秀な学術上の成果をあげた研究者に対して贈られているものです。授与式では、佐藤理事長から挨拶の後、賞状と賞金が授与されました。

受賞者と研究業績は次のとおりです。

虻川匡司（多元物質科学研究所助教授）

「相関熱散漫散乱電子回折表面構造解析の開発」

(多元物質科学研究所)

百周年記念事業・東北大酒の名称は「萩丸」に決定

百周年記念事業の一環として、農学研究科が独自の日本酒造りに取り組んでいた東北大酒の名称に「萩丸」が決定いたしました。

農学研究科の教職員・学生及びOB等を対象に名称を公募し、寄せられた多数の応募のなかから、宮城県花で本学の公式ロゴマークに使用されている「萩」とロゴマークの「丸い地球」のイメージを重ね合わせた「萩丸」に決定されました。

大学独自の酒やワインについては、法人化後に他の大学でも実施している事例はあるが、酒米の育種から栽培、醸造管理、蔵元、ネーミング、販売まで一貫して全ての業務に関わっているのは、本学が初めてです。

東北大酒は、バランスの取れた吟醸香をもち、味にふくらみを持たせた本格的な純米大吟醸酒を目指して農学研究科が一体となって製造するもの

で、農学研究科のOBである鈴木和郎氏が会長を務める株式会社「一の蔵」(宮城県松山町)に醸造を委託しています。

価格は、720ミリリットル入りで3,000円以内を予定しており、酒の仕込みは昨年の12月10日に始まり、生酒を2月中旬に500本、6月以降に3,300本を出荷する予定で、販売ルートについては東北大学生協で取り扱います。

また、農学研究科では大学の記念式典や国際的な学术交流、市民や同窓生の交流の場などで使用されるよう、百周年記念行事が終了してからも、毎年、製造を予定しています。

なお、試飲会は2月22日(水)夕方に農学研究科を会場に総長はじめ関係者をお迎えして行う予定で、これを契機に、なお一層の百周年記念事業の盛り上がりを期待したいものです。



(命名発表会での秋葉研究科長と農学研究科関係者)

(農学研究科)

21世紀 COE プログラム「言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点」
第6回『言語・脳・認知』国際学術フォーラム

去る12月3日(土)、4日(日)の両日、ホテル仙台プラザにおいて「第6回『言語・脳・認知』国際学術フォーラム：東北アジアの漢字処理及び第二言語修得」と題した国際フォーラムが東北大学21世紀 COE プログラム「言語・認知総合科学戦略的研究教育拠点」の主催、および東北大学の後援、京都大学21世紀 COE プログラム「心の働きの総合的研究教育拠点」協賛により開催されました。出席者は、本 COE プログラムの関係教員や大学院生に加え、京都大学、東京工業大学、慶応大学、盛岡大学、聖路加看護大学、四天王寺国際仏教大学、名古屋大学等の教員並びに学生や一般の方など2日間で述べ113人にのぼりました。

本 COE プログラムは言語学を中心にして、脳科学、人工知能、認知心理学など言語科学の関連分野にまたがる研究教育拠点を形成し、言語の仕組の解明とその応用を目的としています。今回のフォーラム開催の主な趣旨は、東アジアにおける文字知覚(特に漢字)に関する認知心理学的研究及び認知神経科学的研究についての最新の研究成果を披露し、新時代の言語科学の樹立に向けて討論を深めることにあります。この目的のために、本 COE プログラムおよび京都大学、広島修道大学、東京工業大学、東京医科歯科大学、中国科学院心理学研究所、韓国嶺南大学からの若手研究者が研究発表を行うと同時に、関連分野の世界的研究者4人を講師として招いて講演とディスカッションをお願いしました。

初日の招待講演では、まず北京師範大学の舒华教授が「Growth of orthography-phonology knowledge in Chinese writing system」と題して、漢字の形態と読みのつながりがどのように修得されるかについて発達心理学の立場から講演を行いました。続いて、名古屋大学の齋藤洋典教授が「Where do Cognition, Action, and the

Brain meet in East Asian Languages?」と題して、日本語における漢字知覚研究の展開及び第二言語修得、特にジェスチャーと発語に関する講演を行いました。2日目には、中国科学院心理学研究所の翁旭初教授による講演「The neural network involving reading of Chinese words」があり、漢字を処理する時に働く脳の部位、特に小脳の関与についてfMRIを用いた興味深い研究が紹介されました。さらに、韓国嶺南大学の李光五教授は、「The Orthographic and Phonological Syllable in Reading Hangul Words」と題して、韓国での漢字研究、特にハングルに内包された読みに対する漢字の影響を実証する内容の講演が行われました。また、当 COE から、情報科学研究科の岩崎祥一教授による仮名及び漢字処理における高次の認知過程の影響に関して「Bottom-up and top-down influences on the processing of Kana and Kanji」と題する講演が行われました。

本フォーラムの締め括りとして行われた招待講演者によるディスカッションでは、参加者からの質問にもとづいて討議が行われ、二日間のフォーラムを終了しました。



(フォーラムにおけるディスカッション)

(国際文化研究科)

平成17年度国際文化研究科 FD 開催

さる12月8日（木）午後5時から6時40分にわたって、川内北キャンパス教育・学生支援部3F大会議室において、平成17年度国際文化研究科FD（ファカルティ・ディベロップメント）が開催されました。

近年、さまざまな場において男女共同参画、ジェンダーに関する理解の向上、セクシュアル・ハラスメント防止が叫ばれていますが、もちろん大学もその例外ではありません。そのような観点から、本研究科のセクハラ相談窓口と男女共同参画推進委員会が中心となって企画された今回のFDには、教員37名、事務職員6名が参加し、セクハラと講演に関するアンケートも実施されました。

今回講師としてお招きした京都大学教授の田邊玲子氏は、18世紀ドイツ文学とフェミニズム（女性学）をご専門とする研究者であると同時に、京都大学女性教官懇話会の代表も務めておられます。十数年前に全国的に話題になった京大教授セクハラ問題がありましたが、その際セクハラで訴えられて依願退職した教授が、事件の真相究明を大学に要望していた懇話会を名誉毀損で提訴しました。当時の代表は被告となったために職を退き、変わって田邊氏が代表職に就きました。なお、裁判は原告（教授側）の全面敗訴で終わりました。

今回のFDでは、セクハラにまつわる理論と実例について、講師の経験と知識を交えた講演を伺うことができました。最初に田邊氏は、女性学を研究する契機となったご自分の体験から話し始められました。紅一点の存在だった大学院生時代、女性だからという理由で結婚や就職について先入観を持たれたり、日常の場で特定の役割を期待されたり、場合によっては男性教員から社会通念を超える人間関係を求められたりした体験談は、現代社会においてなお見られる女性の立場の危うさ

を再認識させるのに十分な内容でした。

田邊氏が60年代後期から主にアメリカで盛んになった女性学の立場から文学研究を進めることになったのは、そのような経験がひとつのきっかけだったそうです。世界に名だたるドイツ文学の傑作にも、現代的な視座から女性像を検証してみると、男性を癒し支える女性、すなわち男性の救済原理としての女性という通念が存在していることは否定できません。男性中心主義によって作られ社会に埋没しているそのような「女のイメージ」を、現実と文学の中から掘り起こして行くという田邊氏の方法論は、周囲の理解を得るのにかなりの時間を要したそうです。

次に田邊氏は、大学セクハラ概念を確立し、恋愛や合意の要素がわずかでもあればセクハラ被害は成立しないという神話を崩壊させた京大セクハラ事件について触れられました。被害者の底知れぬ精神的苦痛、政治的陰謀と決めつけて訴えられた教授を擁護するなどした周囲の初期反応、被害者に精神的パワーをつけさせるフェミニスト・カウンセラーなど、初めて聞くものを含めてさまざまな知識が具体例をとおして伝えられました。

最後にフェミニズム研究の今後の課題として、社会から隔絶しないためにより広い視野から男性も考察の対象に取り組む方向が模索されていることを紹介されて、講演は終わりました。今回のFDは、実体験で得られた有益な知見をユーモアたっぷりにお話していただき、参加者一同啓発されるところが多く、今後の国際文化研究科の研究・教育のあり方を考える上で、大変有意義なものとなりました。

なお、アンケートの半数以上がセクハラ文化・構造的背景をよく認識できたと答え、具体的な講演内容が好評でした。

（国際文化研究科）

平成17年度生涯生活設計セミナー開催



(セミナー会場講義風景)

12月1日(木)文部科学省共済組合,東北大学,宮城教育大学,宮城工業高等専門学校及び仙台電波工業高等専門学校の共催により,平成17年度生

涯生活設計セミナーがハーネル仙台において開催されました。

「退職準備型」セミナーは,定年退職を5年以内に控えた職員及び配偶者の方々に対し,必要な知識・情報を提供することにより,退職後の新しい生活に備える生活設計を行えるよう支援し,あるいは退職について抱きがちな不安を取り除き,新しい生活にスムーズに対応できるように,文部科学省共済組合の福祉事業の一環として実施されているもので,当日は,共催校の教職員の方々104名の参加がありました。

今年度のプログラムは下記のとおりです。来年度以降も実施の予定ですので,職員のみなさんの生活設計の一助としてご利用いただきたいと存じます。

平成17年度生涯生活設計セミナープログラム

講 師 等	プログラム
人事部長 石 川 健 二	開会の辞
(社)中高年齢者雇用福祉協会 渡 辺 源 治	生きがいの開発
国家公務員共済組合連合会 高 橋 昭 彦	退職共済年金の知識
木曽教育研究所 山 田 能 通	家庭経済プランと生涯生活設計のまとめ
歯学研究科長 渡 邊 誠	歯と人生 - 歯・口・顎・顔の動き -
人事部 松 田 清	退職手当について
人事部 阿 部 光 郎	退職後の医療手続き
人事部担当職員	相談コーナー (退職手当・退職後の医療手続き等について)

(人事部職員課)

今春の定年退職教職員

本年度末をもって、次の方々が定年により退職されます。

永年にわたり本学の発展に寄与された皆様方に

感謝申し上げますとともに今後のご健康とご活躍を祈念いたします。

定年退職教員

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
高等教育開発推進センター	教 授	斎 藤 紘 一
文 学 研 究 科	教 授	中 嶋 隆 藏
"	教 授	篠 憲 二
"	教 授	高 城 和 義
法 学 研 究 科	教 授	齊 藤 豊 治
"	教 授	青 井 秀 夫
経 済 学 研 究 科	教 授	河 野 大 機
理 学 研 究 科	教 授	安 田 延 壽
"	教 授	劔 持 勝 衛
"	教 授	山 口 晃 晃
"	教 授	山 本 嘉 則
"	教 授	三 上 直 彦
"	教 授	高 橋 豊 文
"	教 授	新 関 駒 二 郎
医 学 系 研 究 科	教 授	国 分 正 一
医 学 部	教 授	齋 藤 ひろみ
"	助 教 授	尾 形 正 裕
歯 学 研 究 科	教 授	篠 田 壽 隆
薬 学 研 究 科	教 授	井 原 正 隆
"	教 授	大 泉 康 雄
"	教 授	大 内 和 雄
工 学 研 究 科	教 授	井 口 泰 孝
"	教 授	中 村 僖 良
"	教 授	猪 俣 浩 一 郎
"	教 授	太 田 照 和
"	教 授	大 内 千 秋
"	教 授	山 村 力 實
"	教 授	菅 野 隆 樹
"	教 授	近 江 英 樹
"	助 教 授	関 根 章 吾
"	助 教 授	三 宅 朋 幸
"	助 教 授	足 田 朋 幸

所 属	職 名	氏 名
工 学 研 究 科	助 手	鈴 木 弘 文
"	助 手	田 中 紘 一
農 学 研 究 科	教 授	神 尾 好 是
"	教 授	谷 口 旭
"	教 授	小 原 嘉 昭
"	教 授	西 田 朗 章
情 報 科 学 研 究 科	教 授	丸 岡 忠 章
生 命 科 学 研 究 科	教 授	熊 谷 忠 男
"	教 授	前 田 靖 男
"	教 授	渡 辺 彊 準
"	助 教 授	中 村 兵 治
環 境 科 学 研 究 科	教 授	榎 本 邦 夫
"	教 授	新 井 武 雄
"	教 授	齋 藤 千 田 信 一
"	教 授	千 田 秀 敏
金 属 材 料 研 究 所	教 授	福 山 秀 敏
"	助 手	小 尾 俣 久 宏
"	助 手	香 川 昌 宏
流 体 科 学 研 究 所	教 授	南 部 健 一
電 気 通 信 研 究 所	教 授	青 井 基 一
"	教 授	荒 井 賢 一
"	助 手	目 黒 敏 靖
多 元 物 質 科 学 研 究 所	教 授	中 西 八 郎
"	教 授	梅 津 良 昭
"	教 授	岡 泰 夫
"	教 授	水 渡 英 昭
"	教 授	原 田 宣 之
"	助 教 授	柴 田 行 男
"	助 手	熊 谷 昭 文
"	助 手	伊 師 君 弘
病 院	助 手	宮 地 秀 夫

定年退職職員

(敬称略)

所 属	職 名	氏 名
本部事務機構	主 幹	千 葉 岱 男
教育・学生支援部	係 長	土 田 正
"	主 任	小野寺 京 子
"	主 任	尾 崎 寛 昭
"	警 務 員	大 内 義 夫
情 報 部	係 長	加 茂 敬 一
広 報 部	部 長	三 枝 邦 男
工 学 分 館	図書一般職員	早 坂 幸 子
経済学部・経済学研究科	教務・実験助手	東海林 紀 子
理学部・理学研究科	事務長補佐	山 縣 秀 男
"	主 任	岩 佐 典 子
"	技術専門員	森 芳四郎
医学部・医学系研究科	主 任	齋 藤 セツ子
"	技術専門職員	高 橋 幸 男
薬学部・薬学研究科	事 務 長	斎 藤 忠 男
"	係 長	小 川 誠 一
"	主 任	佐 藤 智 江
工学部・工学研究科	室 長	名 生 三 郎
"	専門職員	中 村 勇 司
"	主 任	鈴 木 よし子
"	技術専門員	相 澤 養 市
"	技術専門職員	森 田 峯 生
"	技術専門職員	小 松 清 勝
"	技術専門職員	阿 部 喜 則
"	技術専門職員	遠 藤 厚 己
"	技術専門職員	高 倉 敬 一
情報科学研究科	係 長	千 葉 幸 彦
農学部・農学研究科	技術専門職員	木 村 晃 一
生命科学研究科	係 長	植 野 利 夫
金属材料研究所	課長補佐	村 上 昭 夫

所 属	職 名	氏 名
金属材料研究所	係 長	栗 野 良 和
"	班 長	遠 藤 行 男
"	班 長	小 原 和 夫
加齢医学研究所	技術専門員	佐 藤 多智雄
流体科学研究所	技術室長	片 桐 一 成
"	班 長	小 島 英 則
"	班 長	越 河 和 男
電気通信研究所	係 長	菅 澤 修
"	主 任	小野寺 陵 子
多元物質科学研究所	係 長	柳 和 雄
"	班 長	開 米 篤 志
"	班 長	新 田 健 一
病 院	専門職員	氏 家 吉 栄
"	係 長	佐 藤 要 一
"	係 長	佐々木 美枝子
"	自動車運転手	鈴 木 茂
"	工 務 員	添 田 宣 子
"	工 務 員	堀 江 正 志
"	教務・実験助手	中 村 かつえ
"	病理細菌助手	望 月 静 枝
"	薬剤助手	門 脇 末 子
"	看護助手	榆 和 江
"	工 務 員	氏 家 昭 一
"	副診療放射線技師長	古 村 光 政
"	看護師長	目 黒 英 子
"	看護師長	布 施 元 子
"	看護師長	阿 部 治 子
"	副看護師長	鹿 野 さき子
"	看 護 師	伊 勢 房 子
"	准看護師	遊 佐 幸 子

定年退職教員の最終講義日程

教 員 名	日 時・場 所	最 終 講 義 題 名
法学研究科 教授 青 井 秀 夫	3月3日(金) 14:30~17:30 法学部2番教室・小会議室	法理学研究と洋魂和才
理学研究科 教授 安 田 延 壽	3月9日(木) 13:00~15:00 理学研究科総合棟205号	“「大気乱流」ではメシが食えない・ ・・露と消えにし夢のまた夢”
理学研究科 教授 三 上 直 彦	3月9日(木) 13:00~14:00 理学研究科大講義室	私の履歴書
理学研究科 教授 山 本 嘉 則	3月9日(木) 14:00~15:00 理学研究科大講義室	金属触媒を用いる分子変換研究 - ホウ素 から貴金属まで -
理学研究科 教授 剣 持 勝 衛	3月17日(金) 13:30~14:30 東北大学数理科学記念館	平均曲率について, 私の場合
理学研究科 教授 高 橋 豊 文	3月17日(金) 15:00~16:00 東北大学数理科学記念館	数学に触れてみて
理学研究科 教授 山 口 晃	2月21日(火) 15:00~16:20 物理B棟301号室	若い人へのメッセージ: 一実験屋の数々の 成功と失敗」
理学研究科 教授 新 関 駒二郎	2月21日(火) 13:30~14:50 物理B棟301号室	物理は難しい
医学系研究科 教授 国 分 正 一	2月17日(金) 15:00~16:12 東北大学病院 臨床棟・臨床大講堂	尽きせぬ夢・脊椎外科
医学部 教授 齋 藤 ひろみ	2月16日(木) 13時30分 医学部保健学科大講義室	看護学に問われる学際性
医学部 助教授 尾 形 正 裕	2月16日(木) 15時00分 医学部保健学科大講義室	「雑感 - 臨床検査医学の片隅に身を投じて - 」
歯学研究科 教授 篠 田 壽	3月3日(金) 14:00~15:30 歯学研究科B1講義室	生物リズム学的な視点から見た硬組織
薬学研究科 教授 井 原 正 隆	2月17日(金) 13:00~14:20 薬学研究科大講義室	薬理活性化化合物の効率合成と創薬研究
薬学研究科 教授 大 泉 康	2月17日(金) 14:35~15:55 薬学研究科大講義室	夢ゆたかなる自然界に薬のシーズを求めて
薬学研究科 教授 大 内 和 雄	2月17日(金) 16:10~17:30 薬学研究科大講義室	抗炎症・抗アレルギー薬開発のための理論構築
工学研究科 教授 太 田 照 和	2月2日(木) 13:30~14:30 工学研究科機械系第1講義室	停年退官から定年退職へ
工学研究科 教授 関 根 英 樹	2月2日(木) 14:50~15:50 工学研究科機械系第1講義室	材料力学に魅せられて - 教育, 研究, そ して人間 -
工学研究科 教授 猪 俣 浩一郎	2月16日(木) 13:00~14:00 マテリアル・開発系大講義室	スピントロニクス of 創製を目指して - 6 年間の総括 -
工学研究科 教授 山 村 力	2月16日(木) 14:00~15:00 マテリアル・開発系大講義室	高温融体の物理化学的性質と材料製造プ ロセス

教 員 名	日 時・場 所	最 終 講 義 題 名
工学研究科 教授 大 内 千 秋	2月16日(木) 15:15~16:15 マテリアル・開発系大講義室	鉄鋼および非鉄金属の加工熱処理の研究
工学研究科 教授 井 口 泰 孝	2月16日(木) 16:15~17:15 マテリアル・開発系大講義室	教育・研究・産学連携 道半ばの30数年
工学研究科 教授 中 村 信 良	3月13日(月) 13:00~13:50 電子情報システム・応物系101大講義室	圧電結晶に魅せられて
工学研究科 教授 近 江 隆	3月18日(土) 13:00~15:00 仙台国際センター2F 会議室「萩」	空間の社会・建物の社会
農学研究科 教授 西 田 朗	3月3日(金) 13:15~14:05 農学部・農学研究科第1講義室	家畜育種における分析と総合
農学研究科 教授 小 原 嘉 昭	3月3日(金) 14:20~15:10 農学部・農学研究科第1講義室	牛飲牛食
農学研究科 教授 谷 口 旭	3月3日(金) 15:25~16:15 農学部・農学研究科第1講義室	生物海洋学の興り
農学研究科 教授 神 尾 好 是	3月3日(金) 16:30~17:20 農学部・農学研究科第1講義室	我が研究生活 - ルーメン細菌から毒素まで -
情報科学研究科 教授 丸 岡 章	2月23日(木) 16:00~17:10 情報科学研究科大講義室	すべては計算から始まる
生命科学研究科 助教授 中 村 準	3月10日(金) 12:30~13:30 理学研究科地学・生物共通講義室	カルシウム ATP アーゼ高次構造変異体の発見
生命科学研究科 教授 渡 辺 彊	3月10日(金) 13:30~14:30 理学研究科 地学・生物共通講義室	ゾウリムシ細胞の案内
生命科学研究科 教授 前 田 靖 男	3月10日(金) 14:30~15:30 理学研究科 地学・生物共通講義室	細胞性粘菌と苦楽を共にして教えられたこと
生命科学研究科 教授 熊 谷 忠	3月10日(金) 16:00~17:30 生命科学研究科大会議室(片平本館)	光と生命 - 光は植物や微生物の生活を変える -
環境科学研究科 教授 齋 藤 武 雄	2月2日(木) 16:10~17:10 工学研究科 機械系第1講義室	「独創研究と10万時間の法則」- 大学の窓から41年、お世話になりました -
環境科学研究科 教授 千 田 佑	2月24日(金) 15:30~17:00 工学研究科総合研究棟1階101講義室	反応速度論とシグモイド曲線
環境科学研究科 教授 新 井 邦 夫	3月3日(金) 15:00~17:00 工学研究科 化学・バイオ系大講義室	21世紀は水と二酸化炭素の時代 - 持続可能な社会へのソフトランディング
金属材料研究所 教授 福 山 秀 敏	3月10日(金) 15:00~16:30 金属材料研究所講堂	遍歴: 電子と共に - 仙台・六本木・本郷・柏・仙台
電気通信研究所 教授 荒 井 賢 一	3月13日(月) 16:30~17:20 電子情報システム・応物系101大講義室	科学技術の将来予想と医療磁気工学
流体科学研究所 教授 南 部 健 一	2月22日(水) 15:00~17:00 流体科学研究所2号館大講義室	果てなき海へ漕ぎいでて
多元物質科学研究所 教授 岡 泰 夫	3月2日(木) 13:00~14:30 素材工学研究棟1号館 講堂	バルクからナノ構造へ - 半導体光物性研究 -

教 員 名	日 時・場 所	最 終 講 義 題 名
多元物質科学研究所 教授 梅 津 良 昭	3 月 2 日 (木) 14 : 40 ~ 16 : 10 素材工学研究棟 1 号館 講堂	亜鉛製錬湿式プロセスから排水からの微量有害物質の除去まで
多元物質科学研究所 教授 水 渡 英 昭	3 月 2 日 (木) 16 : 20 ~ 17 : 50 素材工学研究棟 1 号館 講堂	強靱な鋼の鉄冶金
多元物質科学研究所 教授 原 田 宣 之	3 月 3 日 (金) 13 : 30 ~ 15 : 00 材料・物性総合研究棟 大会議室	分子キラリティー科学の展開：天然物から分子モーターまで
多元物質科学研究所 教授 中 西 八 郎	3 月 3 日 (金) 15 : 30 ~ 17 : 00 材料・物性総合研究棟 大会議室	有機・高分子結晶40年

2 月の行事予定

実 施 日	行 事 名	場 所 等
13日(月)・ 14日(火)・ 16日(木) 2 日(木)	本 部 平成17年度業界企業セミナー 第 2 回就職支援セミナー (模擬面接)	川内北キャンパス講義棟 B 棟 101 , 102 , 103 川内北キャンパス講義棟 B 棟 105 , 106
20日(月) 8 日(水)	学友会体育部四賞並びに大谷賞授与式 平成17年度東北大学外国人留学生懇談会	松下会館 ホテル仙台プラザ
17日(金)~ 19日(日) 10日(金)	外国人留学生見学旅行「冬の旅行」 第 5 回東北大学100周年記念セミナー	国立磐梯青年の家 日経ホール
9 日(木)~ 11日(土)	医学系研究科・医学部 第11回日本集団災害医学会総会	仙台国際センター
21日(火)	流体科学研究所 流体科学研究所産学連携セミナー	流体科学研究所 大講義室

訃 報

● 佐藤圭四郎 名誉教授がご逝去されました

佐藤圭四郎名誉教授（文学部）には平成17年12月23日（金）にご逝去（86歳）されましたことを、お知らせします。

ここにご生前のご功績とお人柄を偲びつつ、心から哀悼の意を表します。

● 長尾重夫 名誉教授がご逝去されました

長尾重夫名誉教授（工学部）には平成17年12月24日（土）にご逝去（86歳）されましたことを、お知らせします。

ここにご生前のご功績とお人柄を偲びつつ、心から哀悼の意を表します。

訂 正

第1625号（平成17年12月号）6 P 諸報の記事に謝りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

正：瑞宝小綬章 元事務局長 藤村 和男

誤：瑞宝双光章 元事務局長 藤村 和男

本学関係の新聞記事一覧（平成17年12月分）

一覧は、次の新聞から本学に関係ある記事のタイトルを抽出したものです。記事は広報部広報課で整理しております。

[河北（朝刊、夕刊）、朝日、毎日、読売、産経、日刊工業]

なお、この記事は東北大学ホームページにも掲載しております。

No	記 事	月 日	新聞等名
1	パトエンジェルス活動開始 仙台代表「犯罪ゼロ目指す」	12.1(木)	毎日
2	「共学反対」着信アリ	12.1(木)	河北(夕)
3	「東北大教授」就任の浅野氏	12.2(金)	河北、読売、毎日、朝日、産経
4	「ノーベル賞候補」3氏、仙台で講演	12.2(金)	読売
5	06年度入試の募集要項発表	12.2(金)	河北
6	「セカンドオピニオン」専門外来開始	12.3(土)	読売
7	健康情報の読み方 2	12.3(土)	毎日
8	留学生をサポート 友情はぐくみ20年	12.5(月)	河北
9	アサガオのツルなぜ巻くの 重力感知する遺伝子が機能	12.6(火)	河北
10	アサガオよじ登る仕組み解明	12.7(水)	読売
11	常勤医2人 来月就任 栗駒病院、1人体制が解消	12.7(水)	河北
12	乳がん早期発見を 仙台・キルト展で支援コンサート	12.7(水)	河北
13	顕微鏡内で探針2本独立駆動 ナノ結晶の導電性計測	12.8(木)	日刊工業
14	産総研・東北大 起立型ダブルゲート MOS 試作 電子移動度30%向上	12.8(木)	日刊工業
15	ネイチャー編集者来仙 東北大など視察	12.9(金)	読売
16	役員のなり手不足深刻 70代急増中	12.9(金)	河北(夕)
17	仙台・盲学校教諭の渡辺さん 弱視の壁越え医学博士に 東北大学院で取得	12.10(土)	河北
18	メディアとの関係 市民と研究者議論 仙台・東北大がサイエンスカフェ	12.11(日)	河北

No	記 事	月 日	新聞等名
19	不登校生抱える親の役割を助言 仙台で講演会	12.11(日)	河北
20	ロートブラット氏追悼 核廃絶の意志 継承誓い合う	12.11(日)	河北
21	地域から環境考える 仙台シンボやパネル討論	12.11(日)	河北
22	DNAの突然変異を利用 短時間でイネ「産地識別」	12.13(火)	毎日
23	人集う街づくり模索 国際建築ワークショップでシンボ	12.14(水)	河北
24	工学研究科長に内田教授を選出	12.15(木)	河北
25	脳科学の「今」発表 - 仙台・東北大で研究会	12.16(金)	河北
26	井上所長を再任	12.16(金)	河北
27	ちゃんと知ろう 肺がんのこと 市民公開講座	12.17(土)	河北
28	新科長に佐々木氏	12.17(土)	河北
29	インフルエンザ流行の兆し まん延防止に「せきエチケット」	12.17(土)	河北
30	東北大学創立百周年企画シリーズ vol.2 「脳力」鍛えて新しい人づくり	12.18(日)	河北
31	手作りキャンドル4000個 紙コップ冬空に夢照らす	12.18(日)	河北
32	アジアで進む格差巡り報告 仙台で国際シンボ	12.18(日)	朝日
33	医療最前線44 東北の現場から 小さな切開 一カ所だけ	12.19(月)	河北
34	健康情報の読み方 3	12.19(月)	毎日
35	プリズム8 赤いイナゴの秘密 遺伝する色彩の「型」	12.19(月)	河北
36	備える 宮城沖・大地震 県HPの防災情報 利便性は？ 東北大院生が調査	12.19(月)	河北
37	魯迅・東北大留学時のノート 北京博物館 複写DVDを東北大に寄贈	12.20(火)	河北、朝日、読売

No	記 事	月 日	新聞等名
38	東北大構内に起業家育成施設 事業費 7 億4000万円	12.21(水)	河北
39	浅野教授教壇で熱弁 「知事と は何か」東北大で“初講義”	12.23(金)	河北, 朝 日
40	東北大・小柳教授 3次元LSI を試作 積層構造で高速処理	12.23(金)	河北, 毎 日
41	東北大, 大阪に進出 金属ナノ 材料 大阪府大と研究施設	12.23(金)	日刊工業
42	感染症対策の専門家を育成 東 北大・3年計画	12.23(金)	河北
43	浅野教授が初講義 東北大大学 院 知事の経験熱弁	12.24(土)	産経
44	山形国際交流プラザ 高齢者の 歯と生きがい 歯と脳 密接に関連	12.25(日)	毎日
45	東北大 高温超電導機構に電子 スピン関与 高性能分析装置で計測	12.26(月)	日刊工業
46	健康情報の読み方 4	12.26(月)	毎日
47	文科省「科学に貢献」野口聡一 さんら研究者12人選定 鈴木東北大副学長も	12.28(水)	河北, 毎 日
48	浅野・宮城前知事 慶大教授に 内定	12.28(水)	河北

No	記 事	月 日	新聞等名
49	東北大を誘致 大阪府が正式発 表 金属関連の新産業創成狙い	12.28(水)	日刊工 業, 産経
50	郷土思い尽力 輝く功績永遠 ・05年東北の物故者	12.28(水)	河北
51	チップ10層立体LSI 厚さ0. 3ミリ微細化の壁 突破に期待	12.28(水)	朝日
52	そろばん日本一 5連覇を達成 東北大の土屋宏明さん	12.28(水)	産経
53	文科省 今年の「ナイス・ステ ップな研究者」	12.29(木)	日刊工業
54	東北大谷客員教授ら 無鉛の圧 電材開発 環境への負荷 より軽く	12.29(木)	河北
55	東北大 100周年祝う美酒「萩 丸」農学研究科が独自の酒造り 来年2月お披露目	12.29(木)	河北
56	認知症寄付講座 東北大院に開 設	12.29(木)	河北
57	東北大の3研究室 宇宙実験準 備着々	12.30(金)	読売
58	東北大100周年記念 日本酒「萩 丸」開発 大学関係者 育種から販売まで	12.31(土)	読売
59	抗がん剤治療任せて 専門医4 人來春認定 東北大病院 水準向上 患者も 期待	12.31(土)	河北

百周年記念事業シンボルマークについて



東北大の頭文字「T」と
無限大のカタチを融合させ、
北の空に輝く北斗七星とともに
永遠に歩んでいく姿を現しています。

発 行 東北大広報部広報課
〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1番1号
電 話 022(217)4817
URL <http://www.bureau.tohoku.ac.jp/koho/gakuho/gakuhotop.html>